

平成17年度試験研究成果書

区 分	指導	題 名	大豆品種「リュウホウ」の栽培法	
[要約]大豆品種「リュウホウ」は、地域毎の播種適期間内で早播の場合は疎植、晩播の場合は密植を組み合わせる。既存品種に準じて基本技術の励行を図り、培土や刈取り操作はより慎重に行い、収穫は可能な限り速やかに実施することで、目標とする収量・品質を確保する。				
キーワード	ダイズ	栽培法	倒伏	園芸畑作部 野菜畑作研究室

1 背景とねらい

大豆品種「リュウホウ」は、加工適性の高さで一定の評価を受けつつあるものの、倒伏が多いこと等の生産上の課題があることから、技術改善につながる栽培基準を示すものである。

2 成果の内容

(1) 好適栽培法(表1・2、図1・2)

ア 県南部で地域の播種適期間内の早播である6月第1半旬に播種(以下、早播と略)すると、「スズカリ」より倒伏が多いが、株間20cm(10a当たり7千本)の疎植で軽減され、収量も同程度を確保できる。一方、同じく適期間内の晩播である6月第4半旬に播種(以下、晩播と略)すると、倒伏を大幅に軽減でき、株間12~10cm(同1万2千~1万5千本)の密植とすることで、早播と比較した収量減を2割程度に抑えられる。

以上から、播種期及び播種密度は次のとおりとする。

(ア) 播種期：県南部では6月1日~6月20日(県中部では「スズカリ」等に準じて5月15日~6月5日)を適期間とし、圃場条件等に応じて収量確保には期間内での早播を、倒伏防止には晩播を中心に実施する。

(イ) 播種密度：10a当たり早播で7千~1万本、晩播で1万2千~1万5千本を基準とする。

イ 施肥は、「スズカリ」「ナンブシロメ」の基準量(10a当たり窒素量は県中部で2~4kg、県南部で2(~4)kg)に準じ、圃場や水田転換年数を勘案して実施する。

ウ 雑草・病害虫防除は、「スズカリ」等の体系に準じて発生状況等に十分留意しながら実施する。中耕・培土は、本品種の重要な課題である倒伏防止のために行う。

エ 収穫は、成熟期を過ぎて可能な状態になったら速やかに実施し、しわ粒(皮浮き)等の発生を回避する。また、倒伏がみられる圃場ではコンバインの操作をより慎重に行うことで、汚損粒の発生や土壌の混入を防止する。

(2) 期待生育量と目標収量(表1~3)

ア 早播では、10a当たり350kgの収量を目標とし、主茎長60cm前後、総節数400節/m²前後、稔実莢数700莢/m²、百粒重31~32gを確保する。

イ 晩播では、10a当たり280kgの収量を目標とし、主茎長50cm前後、総節数400節/m²前後、稔実莢数600莢/m²、百粒重30~31gを確保する。

3 成果活用上の留意事項

(1) 収穫の速やかな実施は、裂莢ロスの低減を図るうえでも重要である。

(2) 晩播・密植による株当たり生育量の抑制は、青立(莢先熟)による枯れ上がりの遅延を防止し、速やかな収穫につながる対策としても有効と推察される。

(3) 2の(2)に掲げる目標収量等は坪刈りによる(圃場枕地や収穫・選別の損失等は未考慮)。

(4) 本品種の特性は、「豆腐向け白目大豆品種「リュウホウ」の特性」を参照のこと。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等 県中部及び県南部(盛岡地域以南)の大豆生産技術指導者及び生産者

(2) 期待する活用効果 「リュウホウ」の安定生産・供給及び需要確保

5 当該事項に係る試験研究課題

(875) 大豆の奨励品種決定調査 [H14~H18、県単採種]

6 参考資料・文献

(1) 「品種 豆腐向け白目大豆「リュウホウ」平成17年度試験研究成果(予定)

(2) 「ダイズ新品種「リュウホウ」の育成」東北農業試験場研究報告第91号(1996)

7 試験成績の概要

表1 生育特性及び機械収穫関連特性（農業研究センター（北上）、平成17年）

播種期 (月.日)	品種	株間 (cm)	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本)	最下着莢 (cm)	茎太 (mm)	倒伏	蔓化	青立
6.3	リュウホウ	20	8.1	10.8	56	15.4	5.3	10.2	10.0	少	微	無
		15	8.1	10.10	65	15.9	5.0	12.5	9.2	中	微	無
		12	8.1	10.7	62	15.2	3.8	12.7	8.5	中	微	無
		10	8.1	10.7	68	14.9	3.6	15.8	7.6	中	少	無
	比)スズカリ	15	7.31	10.10	58	14.5	4.4	9.9	9.3	少	微	無
6.20	リュウホウ	15	7.28	10.14	61	15.4	5.1	13.6	9.0	少	微	無
		20	8.7	10.14	41	13.5	4.0	8.8	9.0	微	微	無
		15	8.7	10.14	44	13.5	4.1	11.0	8.5	微	微	無
		12	8.7	10.14	44	12.8	3.6	10.8	7.8	微	微	無
	比)スズカリ	15	8.7	10.13	54	13.7	3.2	14.3	7.1	微	微	無
比)ナンブシロメ	15	8.8	10.16	50	13.9	4.8	10.8	7.9	微	微	無	

注) 畦間70cm・1株1本立で試験を実施、最下着莢は最下着莢節位高の略

表2 収量構成要素及び収量・品質（同上）

播種期 (月.日)	品種	株間 (cm)	総節数 (節/m ²)	莢数 (莢/m ²)	莢内粒数 (粒/莢)	百粒重 (g)	収量 (kg/a)	同左比 (%)	等級	障害粒程度(%)			粗蛋白質 (%)	
										裂皮	しわ	未熟		
6.3	リュウホウ	20	313	671	1.90	31.6	35.6	99	1下	0.0	0.0	15.8	41.2	
		15	435	731	1.86	31.2	35.7	100	1下	0.0	0.0	11.6	41.7	
		12	401	667	1.88	30.6	33.6	94	1下	0.0	0.0	15.3	40.7	
		10	469	696	1.76	30.5	34.0	95	1下	0.6	0.2	14.7	40.6	
	比)スズカリ	15	382	683	1.98	28.1	35.8	(100)	1中	0.0	0.3	7.5	41.4	
6.20	リュウホウ	15	453	547	2.42	22.9	32.4	91	1中	0.0	0.2	12.5	41.5	
		20	251	493	1.84	30.4	25.2	70	2上	0.0	0.2	15.2	41.1	
		15	338	553	1.84	31.0	25.8	72	1中	0.0	0.0	1.2	13.0	40.8
		12	351	556	1.74	30.7	28.4	79	1下	0.0	0.6	10.7	40.9	
	比)スズカリ	15	444	597	1.74	30.6	29.3	82	1中	0.0	0.0	15.7	40.9	
比)ナンブシロメ	15	381	582	1.83	29.2	27.7	77	1中	0.0	0.0	10.3	41.8		

注) 畦間等は表1に同じ、莢数は稔実莢数の略

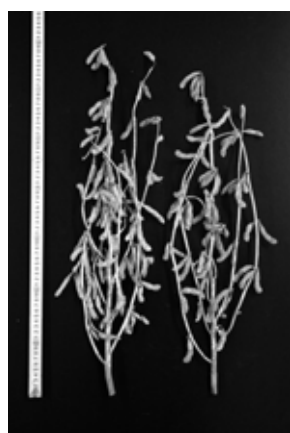


図1 リュウホウ（左）とスズカリ（右）の草姿

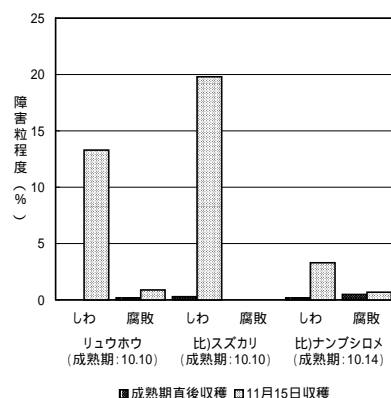


図2 収穫時期による品質の変化（同上）

表3 水田転換畑における生育・収量（同上）

品種	年次 (年)	主茎長 (cm)	倒伏	莢数 (莢/m ²)	百粒重 (g)	収量 (kg/a)
リュウホウ	H16	70	少	630	34.2	37.0
	H17	56	多	576	29.7	28.8
	平均	63	中	603	32.0	32.9
比)スズカリ	平均	61	少	759	28.6	31.8
比)ナンブシロメ	平均	70	多	726	24.8	29.6

注) 播種期6.3~4、畦間70cm・株間15cm・1株1本立で試験を実施